

3月2日垂水駅前での募金活動を行いました。4班に分かれて、声のかけ方、挨拶の仕方、募金の受け取り方などを確認し



て11時から13時の2時間行いました。天気は良かったのですが、風が冷たく寒い状況でした。そんな中でも生徒たちは大きな声を出して能登半島地震への支援を呼びかけてくれました。

小さなお子さんやご高齢の方、ご夫婦など多くの方が関心を寄せられ、募金箱に募金を入れていただきました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。いただいた募金は関係機関を通じてお届けします。



3月4日には多聞東小学校4年生と環境防災科1年生が連携授業を実施しました。本校生は身近な防災や液状化現象などテーマを持って小学生に説明をしていました。小学生もとても聞く姿勢が良く、連携の成果はかなり上がっていると感じました。このような活動は地道ではありますが、本当に必要で、実際の災害があったときに動ける人を育てていかねばならないので、南海トラフ巨大地震に備え、今後も要望がある限り継続して続けて行くことが大切だと感じました。



さらに3月4日・5日は学年毎の球技大会が行われました。2年生は男子がバスケットとサッカー、女子がバレーとサッカー、1年生は雨天でしたので男女ともドッジボールになりました。クラスTシャツ着用のチームもあり、大きな歓声を上げながら楽しんでいました。



3月4日には2年生の看護医療系受験希望者への説明会有り、20名弱の生徒が熱心に講師の先生方の話を聞いていました。いよいよ最終学年になりますので、気持ちも入ってくると思われれます。自分たちの目標に向かって取り組みを進めてください。さらに5日には2年生対象で講義室と教室をオンラインでつなぎ、卒業生が進路に関するアドバイス及び質問に答える形式でのキャリア教育を行いました。6日には2年生が進路ガイダンスを行い、各大学、専門学校さらには大学入試における問題の解き方や考え方、対策等を外部講師の先生方から教えていただく機会を持ちました。3年生が卒業した今、自分たちの現実的な今後の進め方をイメージできたのではないのでしょうか。



また3月6日、1年環境防災科の生徒たちは、環境省ラジエーションカレッジセミナー「放射線の理解を広めよう～今、福島から伝えたいこと」の事業を受け、一般社団法人かわうちラボ井出理事から「福島第一原発事故の避難対応とその教訓、復興状況」というテーマで講演を聞かせていただきました。福島県川内村の全村避難、帰還、除染作業、復興事業の中心として役場に勤務されたご経験からの貴重なお話でした。原発対応など予想していないことに加え、情報が入らないなどかなりのご苦労をされたことがお話から伺えました。13年経っても戻らない部分とそれを越えて前に進まなければならない部分を考えることはかなりの困難が予想されます。それらを含めての引き続きの支援、能登半島地震ではまた違った対応にならざるを得ない状況を理解して、私たちができることを考え、継続的な支援の必要性を感じた講演でした。私たち自身も感じている「伝える、語り継ぐ、繋がる」大切さを今後も被災地域の方々と一緒に考え、災害に備えていかねばならないことを改めて感じました。

